山北町都市計画マスタープラン　概要版

都市計画マスタープランとは、都市計画やまちづくりを進めるための指針とされ、まちづくりの将来像を描くもので、地域の課題を解決するために土地利用を誘導したり、都市施設を整備していく方針を示すものです。

第１章　現況・課題

【人口・世帯】
- 町全体の人口が急激に減少
- 少子高齢化

【交通条件】
- アクセス条件は東西方向が高く、南北方向が低い
- 町道の舗装率はほぼ９割

【都市施設】
- 多くの施設が広域に分散設置
- 道路整備による各施設間のネットワーク形成が重要

【土地の条件】
- 町全体の 85%が自然公園及び自然環境保全地域
- 農地，森林，水面等が減少し、道路，宅地が増加

【産業】
- （農業）衰退が顕著
- （工業）平成 26 年から減少傾向
- （商業）商店数が大幅に減少

【観光】
- 観光客数は回復傾向
- 宿泊客数、観光客消費額は減少の一途

【財政状況】
- 予算は横ばいを維持するも、町税収入は減少が続く
- 福祉関係の支出が増加し、他分野の予算を圧迫

【防災】
- 地震、土砂災害、水害、火災等の危険性が存在

【都市及び自然景観】
- 優れた自然的景観に恵まれている
- 市街地内の景観資源は中心市街地の街並みが中心

山北町都市計画マスタープランの構成

現況・課題（第１章）

→

全体構想（第２章）

町全体を対象としたまちづくりの目標や将来像及びその方針をテーマごとに示します。

- 将来都市像
- 基本理念
- 都市づくりの目標
- 将来都市構造
- 分野別の取組方針

→

地域別構想（第３章）

全体構想に基づき、町内６地区ごとにまちづくりの方針を示す。

- 山北地区
- 岸地区
- 向原地区
- 共和地区
- 清水地区
- 三保地区

↓

推進方策（第４章）

全体構想や地区別構想に示された方針を具体化するためのまちづくりの考え方を示す。

- 協働のまちづくりのための役割
- 進行管理

第２章 全体構想

2-1 将来都市像

「豊かな自然と歴史文化を生かした
にぎわい・交流のまち　やまきた」

2-2 基本理念

まちづくりの根底となる考え方として、町の将来都市像とまちづくりの課題を基に設定します。

2-3 まちづくりの目標

「第5次総合計画」を上位計画とし、基本理念の下、実効性の高い施策を展開するため、5つの都市づくりの目標を設定します。

2-4 将来都市構造

都市の将来像やまちづくりの目標の達成を目指して、町全体の特徴を踏まえ、目指すべき将来の都市の姿を分かりやすく描くものです。

将来の都市構造として5つのエリアを設定し、エリアごとにまちづくりを推進します。各エリアにおいて、商業・行政機能や産業機能などの拠点性の高い地区、観光やレクリエーション等で中心的な機能を持つ地区を「拠点」として位置づけます。

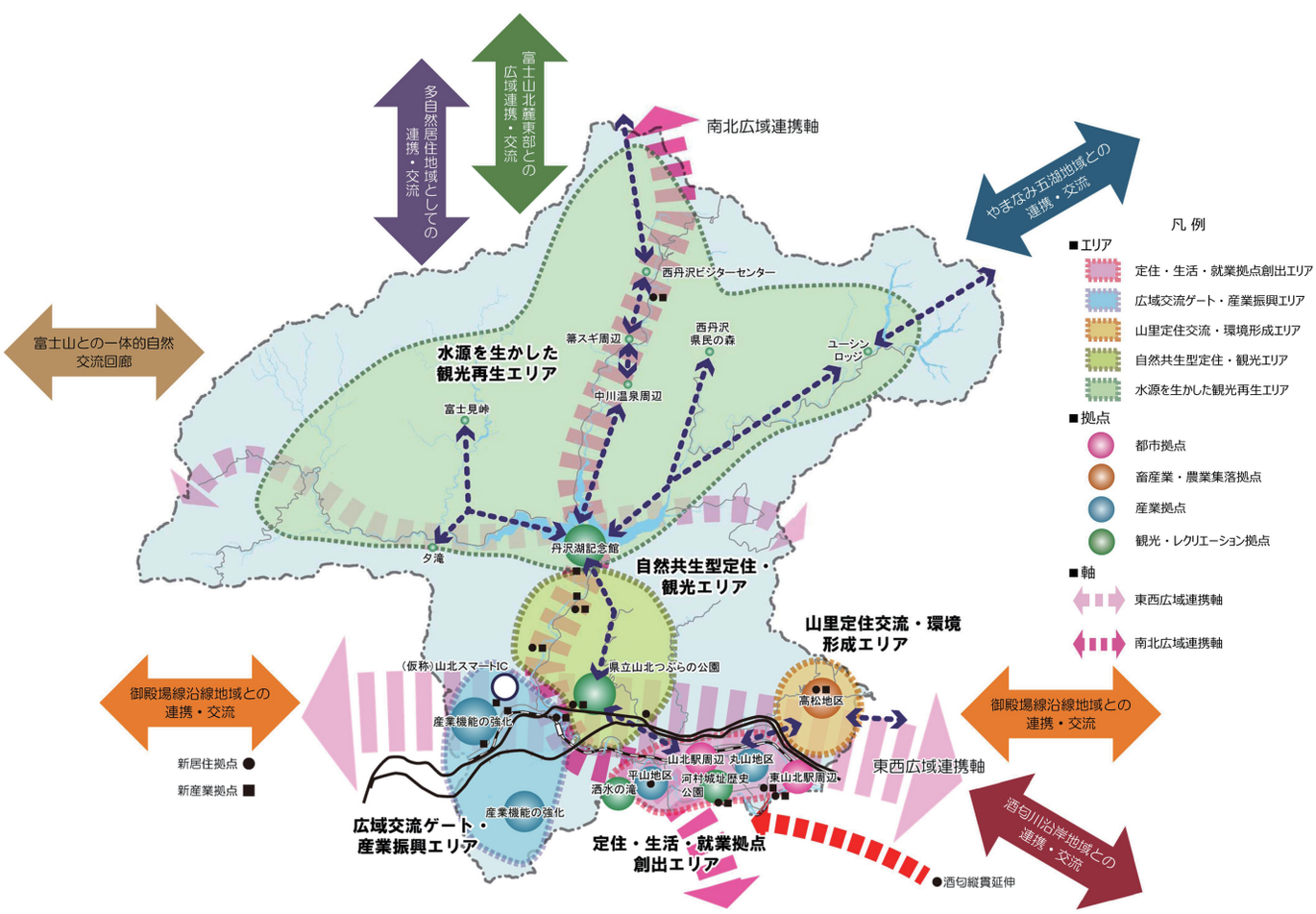
また、他都市との連携を円滑にするとともに、町内の拠点やさまざまな都市機能間の連携強化を図る交流の主体となる交通路を「都市軸」として位置づけます。

2-5 分野別の取組方針

次の各分野の基本方針、施策の展開について設定しています。

1.土地利用の方針
2.交通体系整備の方針
3.自然環境保全・緑地整備の方針
4.都市景観形成の方針
5.住環境整備の方針
6.防災の方針

基本構造図



第３章 地域別構想

3-1 地区区分

地区の特性が近い３つの地区ごとに、山北地域、共和・清水・三保地域としてまとめます。

地域区分	地域区分
山北地域	山北地区 岸地区 向原地区
共和・清水・三保地域	共和地区 清水地区 三保地区

3-2 地域の現況と課題

山北地域と共和・清水・三保地域ごとに、現況と課題をまとめます。そして、地区別の現況と特性・課題を整理します。

3-3 地区別構想

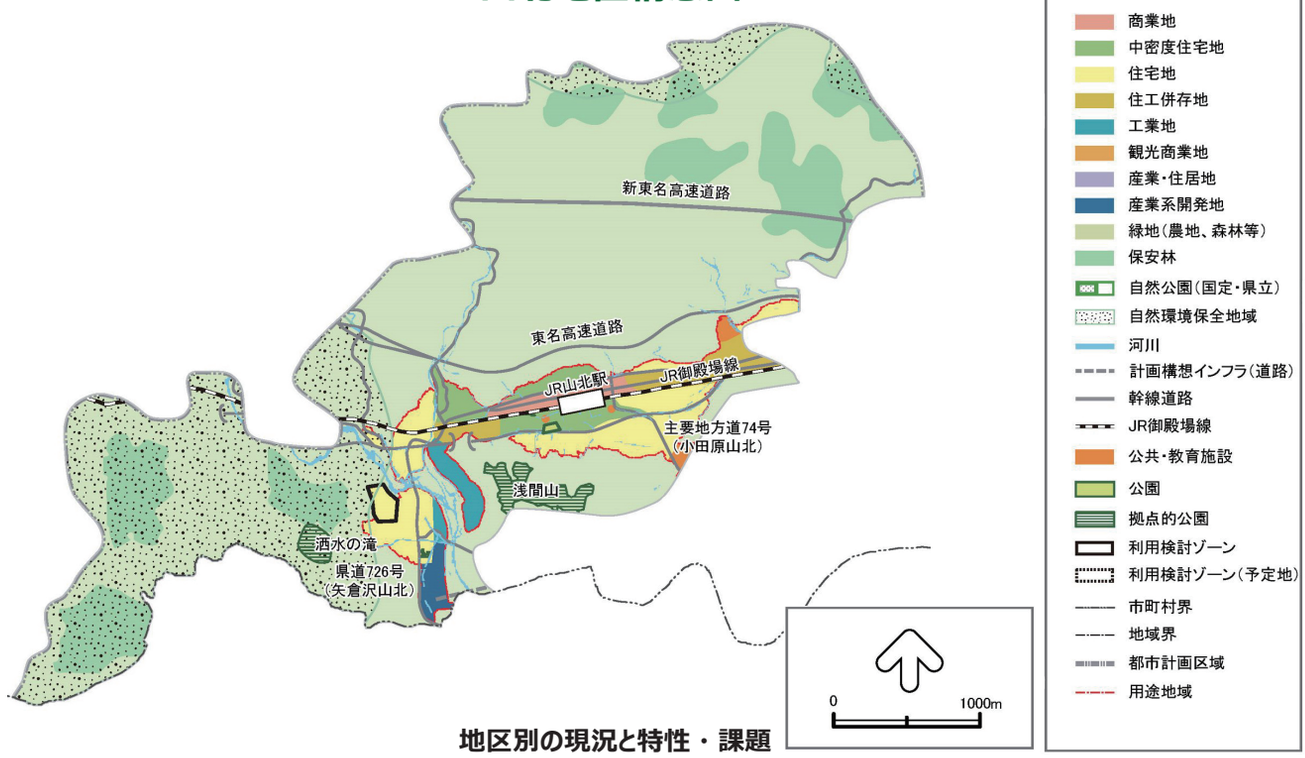
6つの地区ごとに、次の5つを示しています。

（1）地区の現況とまちづくりの基本方針　（2）地区の将来像
（3）土地利用の方針　（4）都市施設等の整備方針
（5）自然環境の保全方針

3-4 計画の実現に向けて

各地区別構想における整備方針を図るための推進方策として、補助事業やプロジェクト等の活用を検討します。

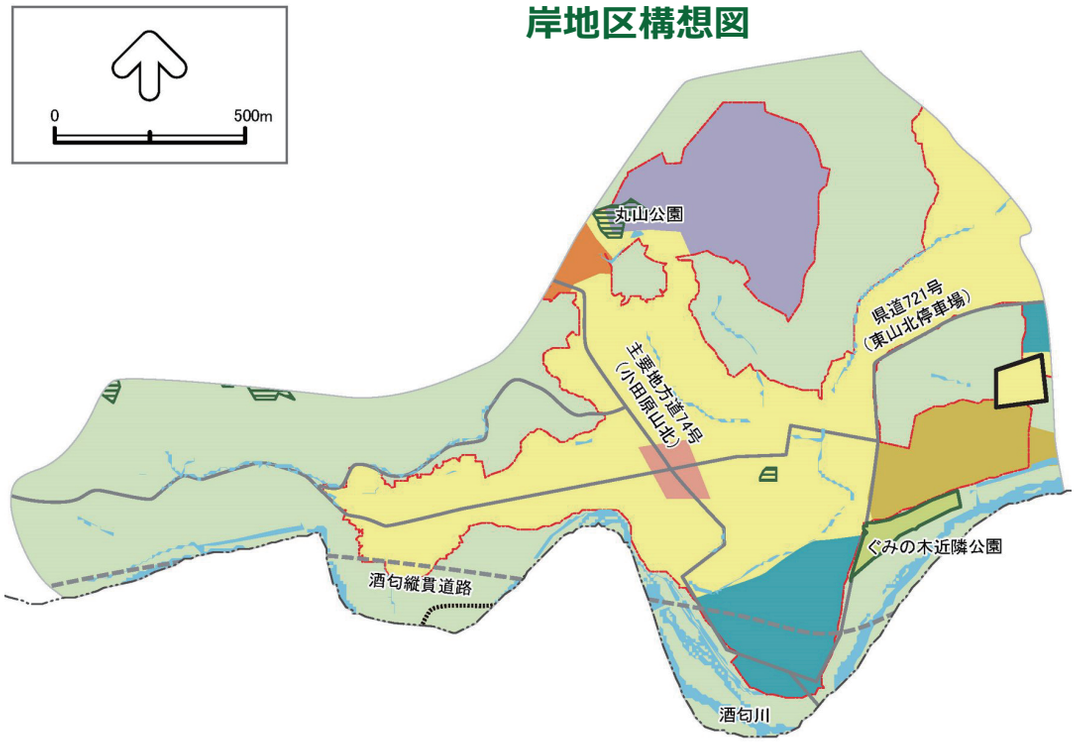
山北地区構想図



地区別の現況と特性・課題

	人口・少子高齢化課題	定住・雇用課題	交流・ネットワーク課題	観光・地域資源課題
山北	・人口減少が進んでいる ・高齢化率が比較的高い	・商店街の再生 ・企業誘致と一体の住宅供給 ・山北駅前の魅力づくり	・山北駅乗降客の減少対策 ・路線バスの維持等、モビリティの確保対策	・洒水の滝等観光客減少対策（桜まつりは増加） ・洒水の滝の遊歩道整備

岸地区構想図



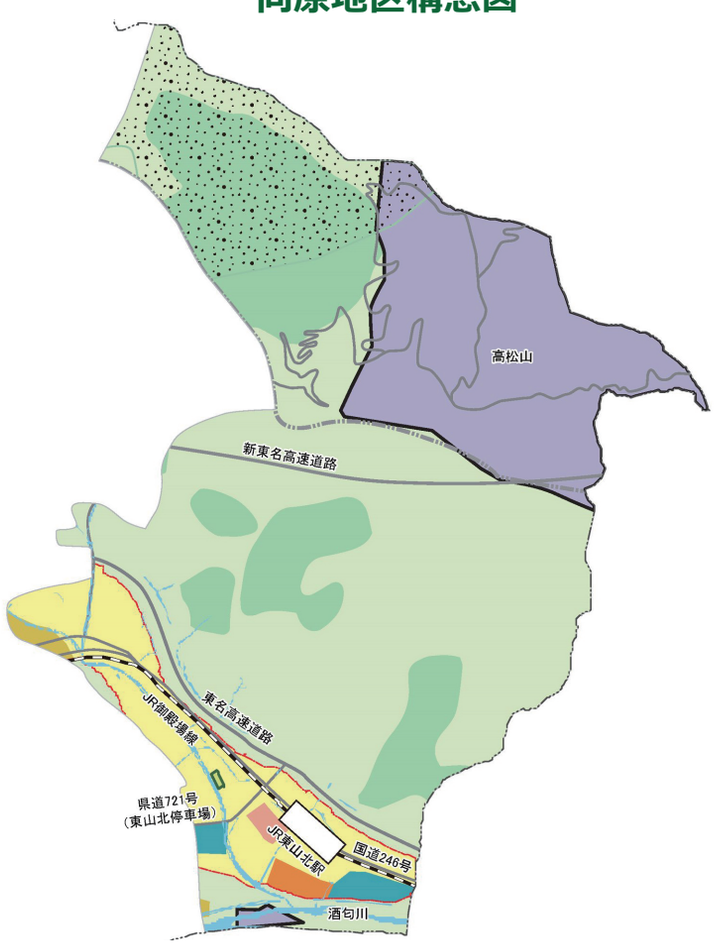
＜凡例＞
- 商業地
- 中密度住宅地
- 住宅地
- 住工併存地
- 工業地
- 観光商業地
- 産業・住居地
- 産業系開発地
- 緑地（農地、森林等）
- 保安林
- 自然公園（国定・県立）
- 自然環境保全地域
- 河川
- 計画構想インフラ（道路）
- 幹線道路
- JR御殿場線
- 公共・教育施設
- 公園
- 拠点的公園
- 利用検討ゾーン
- 利用検討ゾーン（予定地）
- 市町村界
- 地域界
- 都市計画区域
- 用途地域

地区別の現況と特性・課題

	人口・少子高齢化課題	定住・雇用課題	交流・ネットワーク課題	観光・地域資源課題
岸	・人口は減少傾向にある ・高齢化率は比較的低い	・農林業の後継者・担い手育成 ・企業誘致と一体の住宅供給	・中心市街地や生活利便施設へのアクセス対策 ・路線バスの維持等、モビリティの確保対策	・河村城址歴史公園及び周辺の歴史的環境整備

向原地区構想図

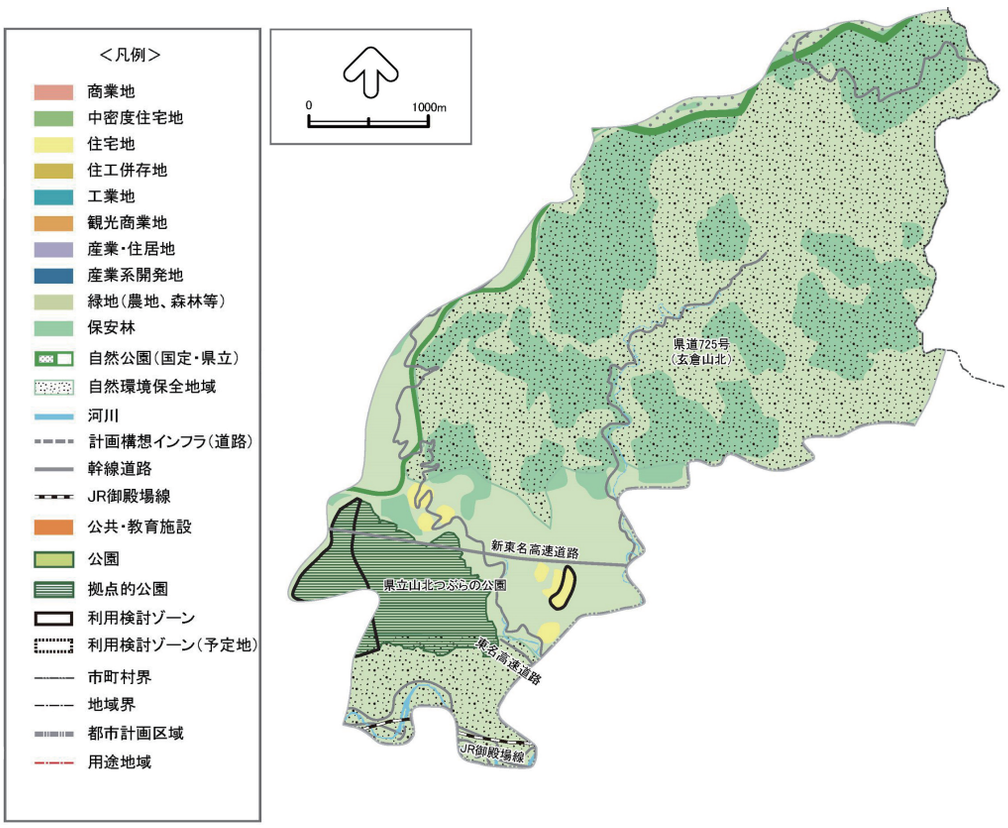
＜凡例＞
- 商業地
- 中密度住宅地
- 住宅地
- 住工併存地
- 工業地
- 観光商業地
- 産業・住居地
- 産業系開発地
- 緑地（農地、森林等）
- 保安林
- 自然公園（国定・県立）
- 自然環境保全地域
- 河川
- 計画構想インフラ（道路）
- 幹線道路
- JR御殿場線
- 公共・教育施設
- 公園
- 拠点的公園
- 利用検討ゾーン
- 利用検討ゾーン（予定地）
- 市町村界
- 地域界
- 都市計画区域
- 用途地域



地区別の現況と特性・課題

	向 原
人口・少子高齢化課題	・近年、人口が僅かながら増加している ・高齢化率は比較的低い
定住・雇用課題	・東山北駅周辺の土地利用促進（住宅の供給・商業施設の誘導等） ・農林業の後継者・担い手育成
交流・ネットワーク課題	・東山北駅乗降客の増加傾向を維持するための対策 ・路線バスの維持等、モビリティの確保対策
観光・地域資源課題	・高松山のハイキングコースの活用促進

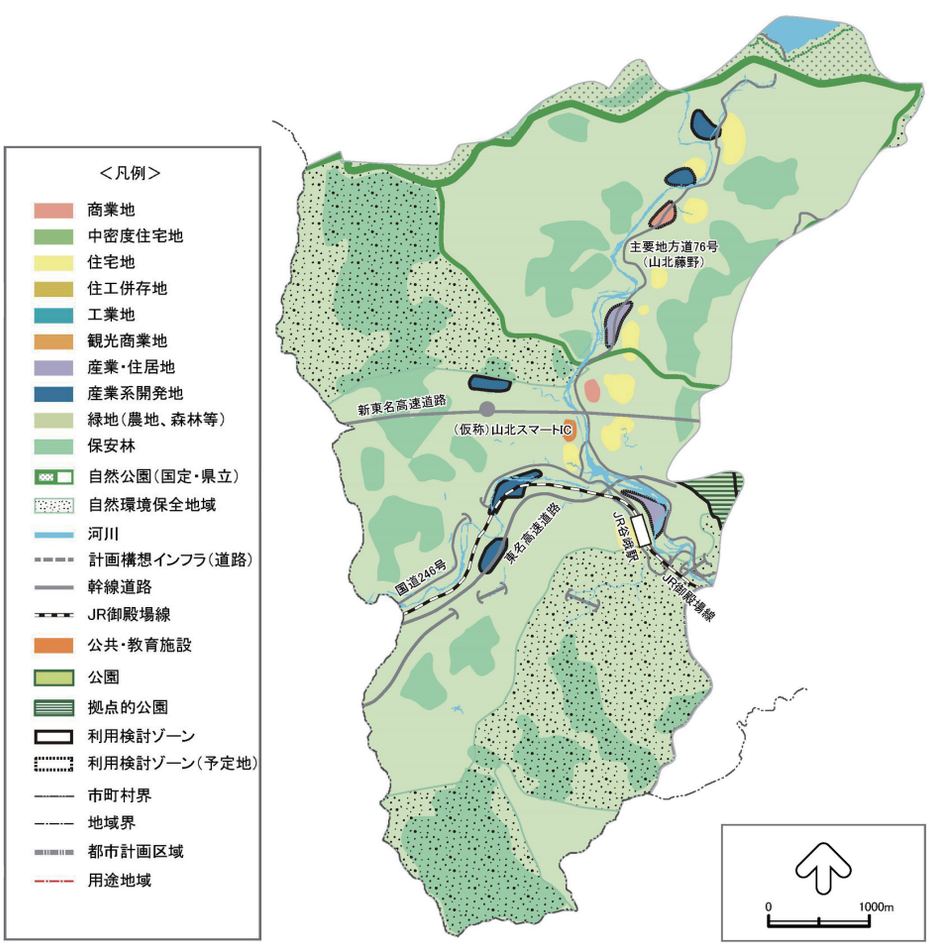
共和地区構想図



地区別の現況と特性・課題

	共　和
人口・少子高齢化 課題	・人口は下げ止まりの様相を呈している ・高齢化率が極めて高い
定住・雇用 課題	・農林業の後継者・担い手育成 ・企業誘致と一体の住宅供給
交流・ネットワーク 課題	・中心市街地や生活利便施設へのアクセス対策 ・路線バスの維持等、モビリティの確保対策
観光・地域資源 課題	・大野山等観光客減少対策 ・県立山北つぶらの公園のと連動した観光客増加対策

清水地区構想図



地区別の現況と特性・課題

	清　水
人口・少子高齢化 課題	・顕著に人口が減少している ・高齢化率が比較的高い
定住・雇用 課題	・農林業の後継者・担い手育成 ・砂利採取地跡地利用の検討 ・観光型産業の拠点づくり
交流・ネットワーク 課題	・谷峨駅乗降客の維持・増加に向けた対策 ・谷峨駅と丹沢湖周辺地域の観光ネットワーク化 ・国道246号からのアクセスの活用 ・スマートインター線周辺整備 ・東日本台風で被害を受けた、河内川ふれあいヴィレッジの再開 ・（仮称）山北スマートIC周辺土地利用構想に基づく土地利用 ・路線バスの維持等、モビリティの確保対策
観光・地域資源 課題	・県立山北つぶらの公園と連動した観光客増加対策

三保地区構想図

地区別の現況と特性・課題

	人口・少子高齢化課題	定住・雇用課題	交流・ネットワーク課題	観光・地域資源課題
三保	・顕著に人口が減少している ・高齢化率が高い	・交流施設一体型の小規模住宅供給 ・観光、商業の振興対策	・近隣自治体との交流圏拡大 ・県道76号線（山北藤野）の整備促進 ・路線バスの維持等、モビリティの確保対策	・玄倉、箒沢等観光客減少対策 ・国有林等森林資源の維持保全活用 ・丹沢湖等の水辺環境の維持保全活用 ・河川敷周辺環境の保全と活用 ・山間地を中心にスポ・レク系施設整備

第４章 推進方策

4-1 基本的な考え方

計画を実現するためには、まちづくりの主体となる町民、事業者や関係団体などと行政が「協働のまちづくり」を推進する必要があります。

4-2 協働のまちづくりのための役割

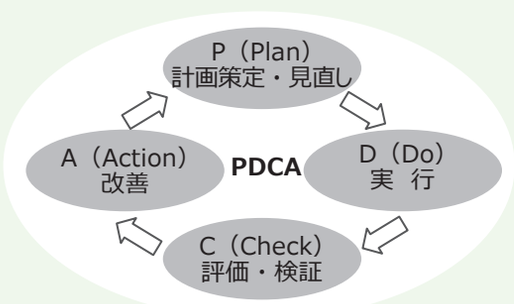
町民：まちづくりに主体的に取り組む
事業者・関係団体：行政との連携
行政：計画の策定や事業者や関係団体等のまちづくりの取り組みへの支援など

4-3 まちづくりの推進体制の構築

- 国、県及び近隣市町等と連携・協力の強化
- 協働のまちづくりへの町民参加の仕組みづくり
- まちづくりのPR、積極的な情報発信

4-4 進行管理

- 計画的な施策の実施
- まちづくり施策の評価・検証→PDCAサイクルの導入
- 必要に応じた計画の見直し



PDCA の概念

お問い合わせ
山北町役場 都市整備課
〒258-0195 神奈川県足柄上郡山北町山北1301-4
電話番号：0465-75-1122 ファックス：0465-75-3661